

日本の「石油備蓄」について

さつきクラブ

はじめに

さつきクラブでは、子どもを視野に入れた「食の安全」を主なテーマとしています。今や生活が危ぶまれることばかりです。今回石油の備蓄のことで、知っているようで知らないことをテーマとしました。大切な食生活から、今後も夢ある生活を送りたいと思う私たちです。状況を冷静に受け止めながら、しっかりとした生活をしていきたいと思えます。情報を頼りにこのテーマに向き合いたいと思えます。

2026年3月半ばに、ちょうど鹿児島県指宿市から薩摩半島の東側を通って行くときに目にしたのが、錦江湾一面に見え、桜島を背景にしたタンクの集団でした。これこそ喜入基地といわれる石油備蓄基地です。ちょうど同乗した人に「万が一石油が不足したとき使用するのよ。」「そのようなことないよね。」との会話直後の石油危機。やはり皆で「日本の石油備蓄」について真実を知っておかなければならないと感じました。

「国家備蓄」とは

石油備蓄法の中の、国として石油を備蓄する事業のことをいいます。

日本では、1970年代～1980年代に起こった2度のオイルショックを元に、備蓄の考えが更に深まりました。

先に民間企業の備蓄を増強してから、1975年（昭和50年）には石油備蓄法が制定され、1978年（昭和54年）に国家備蓄が始まりました。

備蓄に関して、民間企業備蓄・国家備蓄があること、更に調べると、備蓄に関して3種類の方法があることなど、様々な情報があります。

「備蓄の種類」

現在3種類があります。

- ①国が保有する「国家備蓄」
- ②石油精製事業者などが保有する「民間備蓄」
- ③日本国内のタンクに、産油国の国営石油会社が保有する「産油国共同備蓄」

「備蓄の量」

国家備蓄に関して

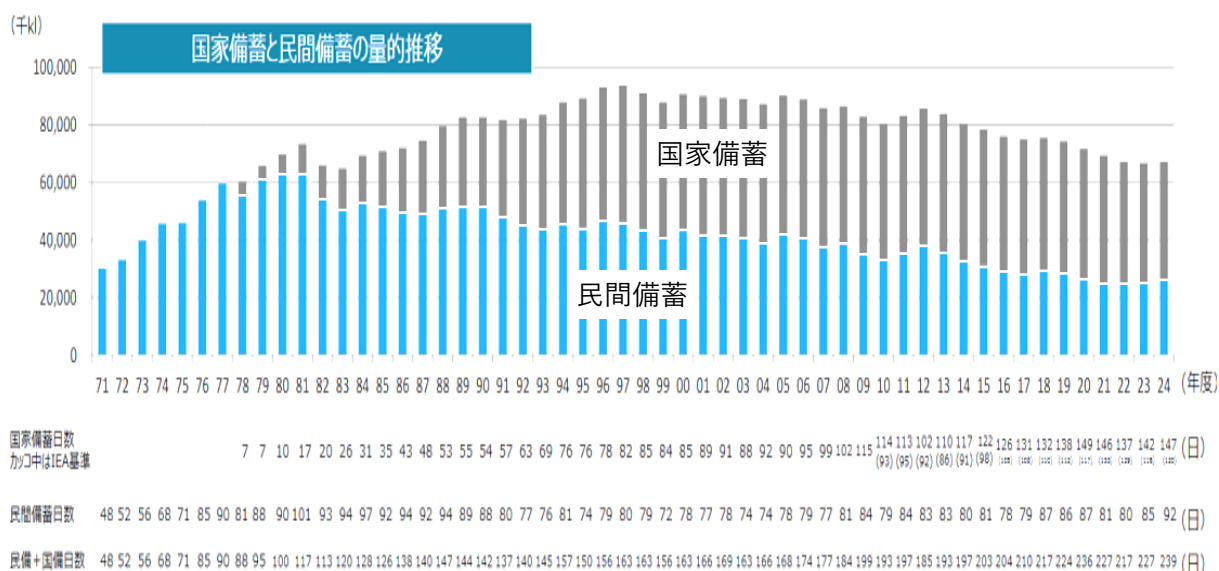
1978 年時点で、当初目標 1,000 万キロリットル、次いで 3,000 万キロリットルが目標とされました。

1989 年度（平成元年度）に目標を達成しました。

1997 年度（平成 9 年度）には 5,000 万キロリットルに達しました。

2026 年 1 月末現在では、7,289 万キロリットル（製品換算で 7,006 万キロリットル）、約 8 ヶ月分に当たる 248 日分の石油が備蓄されていました。

いろいろなデータから見ても 民間に半分は頼っている状況です。



※石油備蓄量は年度末実績。民間備蓄、国家備蓄とも製品換算後ベース。表中の数字は日数（備蓄法基準）

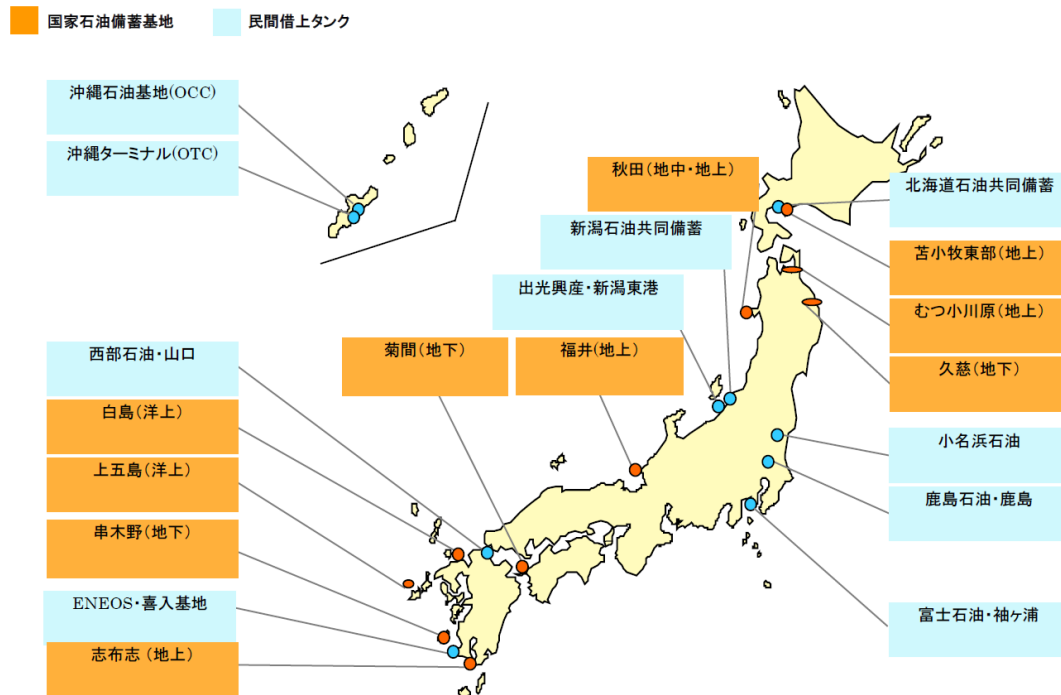
（出典）資源エネルギー庁「石油備蓄の現況」

「備蓄基地の数」

石油の「国家備蓄基地」は、地上・地中・地下・洋上にある 10 基地です。

民間企業が持っている製油所や原油を貯める「油槽所」の一部のタンクを借り上げて国家備蓄の場としている所も 10 か所あります（図参照）。

石油の国家備蓄基地



それぞれの地形に合わせて地上・地中・地下・洋上の方法で基地を作っています。

志布志国家石油備蓄基地（地上）

苫小牧東部国家石油備蓄基地（地上）を含め 5 基地 （地中を含む）

上五島国家石油備蓄基地（洋上）を含め 2 基地

菊間国家石油備蓄基地（地下）を含め 3 基地



志布志国家石油備蓄基地（地上）



上五島国家石油備蓄基地（洋上）



苫小牧東部国家石油備蓄基地（地上）



菊間国家石油備蓄基地（地下）

2026 年 3 月 26 日、国家備蓄原油の放出を開始しました。

石油備蓄の制度が始まって以来、初めて国家備蓄原油が放出されたのは、実は 2022 年度（令和 4 年度）だそうです。ロシアのウクライナ侵略による世界的なエネルギー危機が起こる中、実施されました。

そのため、今回の国家備蓄放出は制度創設以来 2 回目ということになります。2026 年 3 月 26 日以降、国家石油備蓄基地と民間タンク借り上げの両方から順次放出されます。

放出された原油は、国内の石油精製事業者によって精製され、ガソリン、灯油、軽油、重油などが、国内に供給され、わたしたちに届けられていきます。

過去の教訓を活かした万が一に備えた石油備蓄のしくみを通じて、日本のエネルギー安定供給が図られていくのです。

2026 年 3 月の「国家備蓄」放出基地・借り上げタンク一覧

《国 家》 苫小牧東部国家石油備蓄基地

菊間国家石油備蓄基地

白島国家石油備蓄基地

上五島国家石油備蓄基地

志布志国家石油備蓄基地

《借上げ》 北海道石油共同備蓄株式会社北海道事業所

鹿島石油株式会社鹿島原油タンクヤード

石油株式会社袖ヶ浦製油所中袖基地

ENEOS 株式会社喜入基地

沖縄石油基地株式会社沖縄事務所

沖縄ターミナル株式会社沖縄ターミナル基地

安全性・機動性・効率性を基本に、国家備蓄を管理するのが JOGMEC

国家備蓄の現場を守り、すべての国家備蓄基地や備蓄原油の統合管理をおこなっているのは、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）の「資源備蓄本部」です。

事業体制は 3 つの部門に分かれています。

「備蓄企画部」 資源備蓄本部の下には、管理を統括

「石油・石油ガス備蓄部」 現地で運転管理をおこなう民間の操業会社を管理

「環境安全・技術部」 備蓄の安全確保と技術支援などを担当

各国家備蓄基地に基地事務所が設置されています。

安全・安心のために

石油という危険物を備蓄しているため、「安全性」の確保を常に意識しています。法律で定められた訓練だけでなく自主的な訓練、技術の向上に常に取り組んでおり、さまざまな防災訓練や、万が一原油が流出する事故が起こった場合には環境汚染を最小限におさえる「油防除訓練」などを計画的に実施しているようです。



2026 年 3 月に備蓄原油が放出された基地のひとつ、白島国白島国家石油備蓄基地

さつきクラブでは 石油備蓄についてアンケートをとりました。

2026 年 6 月 21 名

I 報道される前、日本が「石油備蓄」をしていることを知っていましたか
知っていた 13 名 知らなかった 8 名

II 「石油備蓄」は、なぜ、始まったか、知る限り自由記入をお願いします。

- ・ 1987 年のオイルショックで物価の高騰、物不足など混乱有り、エネルギーの備蓄の情勢が認識された。
- ・ 1970～1980 年代に起こった 2 度のオイルショックを教訓に備蓄の増強を始めた。1975 年石油備蓄法が制定された。
- ・ オイルショックがあったから・ 50 年以上前、オイルショックがあったから
- ・ 日本は、原油のほとんどが輸入に頼っている。もしもの時に備えて、国が備蓄していた。

Ⅲ 「石油備蓄」は国家備蓄と、民間備蓄があります。知っていましたか。―

知っていた 11 名

知らなかった 10 名

Ⅳ 日本で、「エネルギー基本計画」7 次が 2025 年閣議決定されています。

今後のエネルギー資源として考えることがたくさんあります。

今後、天然ガス、石油、石炭 等の化石燃料の安定供給をはかるために何が必要と思いますか。

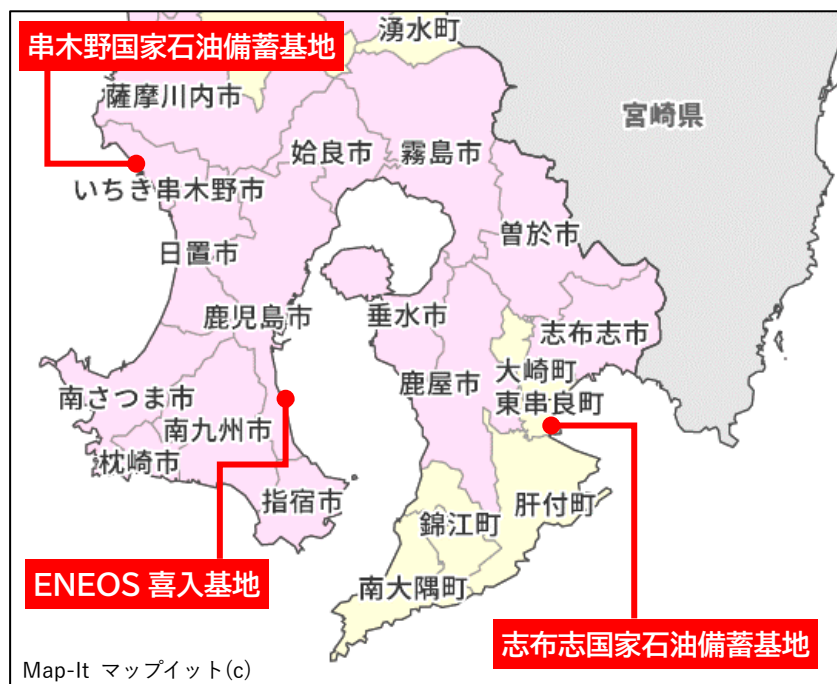
- ・ 政府のエネルギー対策のトータルな整理
- ・ 化石燃料の安定供給は必要と思うが、今後は、化石燃料に頼らない生活を目指した方が良く。コスパ重視、便利過ぎる生活を見直した方がいい。
- ・ 再生エネルギー、自然エネルギーの活用が何よりも重要
- ・ 石油・石炭の過度な使用は、気候変動をもたらし、人の生命や環境に大きな影響を与えるので、できるだけ減らすべき。
- ・ エネルギー問題について、次世代を担う中高生へのエネルギー教育を行っていく必要である。（理解し、考え、今後の方針、必要な行動をとれるような基本的知識の習得）
- ・ 危機管理が必要。
- ・ 電気等の節約
- ・ 同一国からの輸入に頼らず、他の国とも取引する。
- ・ 各国との連携
- ・ 特定の地域の輸入依存を見直し、各国へ分散させることが必要と思う。
- ・ 省エネの努力が第一と思う。そのために設備の導入も必要。
- ・ 太陽光など自然エネルギーをもっと利用することが必要
- ・ 生活者が、もっと省エネをくふうした生活をする必要がある
- ・ エネルギー資源がどんどん少なくなっているようで不安
- ・ 資源が少ないので、減らすことも考えたい。

民間備蓄基地として

ENEOS 喜入基地場所は世界最大級の原油中継備蓄基地です。

その鹿児島県には、3つの備蓄基地があります。

▶鹿児島県内の石油備蓄基地



ENEOS 喜入基地の紹介をします。

商 号 E N E O S 喜入基地株式会社

設立年月日 1967 年 3 月

本社所在地 〒891-0202 鹿児島県鹿児島市喜入中名町 2856 番 5

資本金 40 億円

事業内容 石油類の貯蔵および受払

いつの時代も必要不可欠な石油の安定供給を、鹿児島から支えています。

備蓄機能

我が国の石油需要の約 3 週間分を備蓄可能で安全に・大切に備蓄管理しています。

喜入基地では、16 万 Kℓクラス 24 基、10 万Kℓクラス 30 基、5 万Kℓクラス 3 基、合計 57 基（貯蔵能力 735 万Kℓ）の原油タンクを擁し、海外から輸送された原油を大切に管理しています。

喜入基地の原油タンクは、大きな地震や台風にもビクともしない構造になっています。

また、漏油検知器や油火災に対する泡消火装置、冷却散水設備などの防災設備も完備されています。

浮屋根式原油タンク



原油タンクの屋根は浮屋根式となっており、原油量の増減で自動的に屋根が上下するようになっています。

原油の油面に屋根が浮いているため、火災の原因となるガスの発生を防ぎ、同時に臭いの発生も防いでいます。

中継機能

日本で唯一の原油中継備蓄基地として、石油の安定供給を支えています。

世界各国で採掘された原油は大型タンカーで喜入基地を経由し、その後日本全国の製油所へ運ばれます。

原油は、製油所で石油製品に生まれ変わり、様々な形で消費者のもとに届けられます。

喜入基地は、産油国とENEOSグループの各製油所を結ぶ原油中継基地として重要な役割を担っており、その受払量は日本の石油消費量の約10%に相当します。

喜入基地では、地域社会の一員としての取り組みも行われています。

ENEOS わくわく環境・科学教室

地元小学校において、環境やエネルギーについて学習する出張授業の実施。
地域夏祭りへの協賛

喜入地区の夏祭りに協賛し、また、神輿担ぎやブース出展を行なう。

港・海岸の清掃活動

定期的に近隣の港・海岸の清掃活動に参加。環境保全活動を推進。

随時、見学可能。

終わりに

天然ガス、石油、LPガス、石炭などの化石燃料の安定供給で私たちの日常生活が営まれています。今まで当然と思っていたことです。しかし、その歯車がかみ合わないことがあると、現在2026年度の状況になります。世界の情勢は日本にも忍び寄ってきました。

エネルギーの大切さをしみじみ感じました。まずは、日本のエネルギーに関する取り組み、特に石油の備蓄について、しっかりと把握しておくべきと思いました。アンケートの声は、私たちの声そのものと思います。

「私たちは、出来ることを考えて実行する。」「次世代の子どもたちに事実を伝えていく。」それが大人の使命と思います。

参考文献

- ・「エネこれ 2026-04-13」より
資源エネルギー庁 資源・燃料部 燃料供給基盤整備課
電話：03-3501-1993(直通)
FAX：03-3580-8467
- ・ENEOS喜入基地株式会社ホームページより